

まほろばだより

第44号

Contents

- Report1 第12回女性研究者学術研究奨励賞
- Report2 令和4年度FD・SD講演会
- Report3 教職員の保育環境
- Report4 研究支援員配置制度利用者の声(10)

Report
1

第12回女性研究者学術研究奨励賞の受賞者が決定しました

本学では、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等を目的に「女性研究者学術研究奨励賞」を設置しています。本奨励賞への応募者は年々増加しており(図1)、今回は基礎医学・教養教育部門から2名、臨床医学部門から6名、合計8名の女性研究者が応募されました。8名の応募者全員が、自ら主体となって新規性かつ独自性のある研究に取り組み、以前の業績だけではなく現在も着実に業績をあげておられました。所属長からの推薦理由には、研究活動に加えて教育、診療、社会活動にも熱心に取り組んでおられることが丁寧に記されていました。

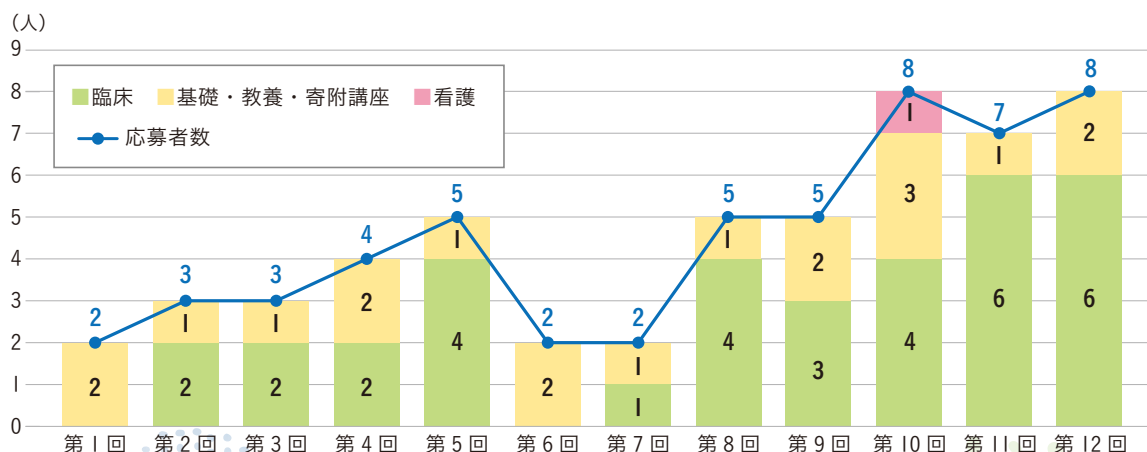
3月2日に開催された選考委員会(委員長;細井学長)で慎重に審議した結果、第12回女性研究者学術研究奨励賞は消化器・総合外科学講座の松尾泰子先生が受賞の栄冠に輝きました。おめでとうございます。庄雅之教授ならびに教室員の皆さまにも心よりお祝い申し上げます。授賞式および受賞者による記念講演は、中島佐一学術研究奨励賞授賞式と共催予定です。

今回受賞の栄冠に輝かれた研究者は1名ですが、ご応募いただいた8名全員が本学の女性活躍推進の原動力となるかけがえの無い研究者です。皆さまの今後益々のご活躍を期待しています。

【受賞者】 消化器・総合外科学講座 診療助教 松尾 泰子氏

【研究テーマ】 大腸癌肝転移における
CD200 発現の臨床的意義の解明と新規治療法の開発

図1 第1回から12回までの応募者数の推移



令和4年度FD・SD講演会

「大学における性暴力への対応—予防から被害者支援まで」Web開催(Zoom)



島根大学 河野 美江教授

2月6日に教育開発センター、人事課と共催でFD・SD講演会を開催しました。島根大学 保健管理センター 河野美江教授に「大学における性暴力への対応—予防から被害者支援まで」についてご講演をいただき、1.性暴力とは何か 2.大学における性暴力の現状 3.性暴力被害を受けた学生への支援 4.性暴力に対する予防教育 について実例を交えわかりやすくご説明いただきました。講演会には教職員104名の参加申し込みがあり、51名の方が「わかりやすく勉強になった」、「性被害の多さに驚いた」等、アンケートにご意見をお寄せくださいました。講演会で用いられた資料の一部を下記に示します。講演会資料一式を希望される方は、女性研究者・医師支援センター（内線2525もしくはjshien@narmed-u.ac.jp）までご連絡ください。

性暴力とは

本人が望まない性的な行為はすべて性暴力
被害を受けた人は、何も悪くない

- ・触られる(触らせられる)
- ・キス
- ・マッサージ
- ・性交
- ・露出
- ・盗撮
- ・ポルノを見せられたり撮影されたりする

性被害は年齢、学年、地位、性別、性的指向、職業や人種などに関係なくおこる 女性だけではなく男性もあうことがあるし、男女間だけでなく、同性間で被害/加害が起きることもある

性犯罪と性暴力

性暴力

同意がなく強要された
すべての性行為

性犯罪

刑法上の強制性交等罪、
強制わいせつなどの性的
欲求等に基づく身体犯

性暴力とは、身体の統合性と性的自己決定を侵害するもの

国連「女性に対する暴力に関する立法ハンドブック」2009年

性暴力被害の様々な影響

性暴力被害では様々な症状が起こるが、被害者は被害の影響とは気づかず自分を責めることが多い

性や妊娠・出産に関わる
健康への影響

- ・望まない妊娠
- ・性感染症 など

身体への影響

- ・被害による負傷
- ・眠れない、悪夢
- ・めまいや吐き気、痛みなど
様々な身体の不調

心への影響

- ・恐怖、不安、自責感、怒り
などの様々な感情
- ・感覚や気持ちの麻痺
- ・気分の落ち込みなど

社会生活や対人関係への影響

- ・仕事や学校に行けない
- ・外出したり活動ができなくなる
- ・人と会いたくなくなる
- ・人間関係が悪くなる など

一人じゃないよ (独)国立精神・神経医療研究センター

セカンドレイプ(二次被害)

被害者が被害を訴えた警察、医療機関、家族、
友達などから二次的に精神的苦痛や実質的な不利益、
被害を受けること

- ・どうして逃げなかったの
- ・なぜ助けを呼ばなかったの
- ・しっかりしているから大丈夫
- ・つらいのはあなただけじゃない
- ・大丈夫、よくなりますよ
- ・私だったら気がくるってしまう
- ・なぜ、もっと早くに話さなかったの
- ・何をやっていたの
- ・思ったより元気そうだね
- ・早く忘れた方が良いよ
- ・気にしないで
- ・がんばって！しっかり
- ・こうすればよかったのに

私たちが気をつけることは、セカンドレイプをしないこと

学生支援機関でできること

教職員、カウンセラーは学生のケアをしつつ、
状況を見立て、専門機関につなぐコーディネーターの
役割が求められる

1. 学生が安全であるかどうかの確認し、再被害の危険があれば、警察への相談を勧める
2. 睡眠や食事がとれているのか、身近に支えてくれる人がいるのかを確認する
3. 性被害を受けたときにできることについて、学生にわかりやすい言葉で情報提供する

学生対応における留意事項

被害を受けた学生に、安心で安全な場を提供する

1. できるだけ他の学生や教職員と顔を合わせないように配慮し、個室で話を聞く
2. 被害者が女性の場合、対応はできるだけ女性支援者が行うことが望ましいが、男性支援者の場合は必ず女性支援者が同席する
3. 同行者がいる場合は、その人が同席したほうがいいかを必ず本人に確認し、決めてもらう。特にパートナーからDV被害を受けている場合、被害者のみから話を聞くようにする

被害にあいそうな人を見かけたら ～第三者介入

被害にあいそうな人を見かけた時に、私たちが動いて最悪の事態を避けること、自分の安全を確保した上で、できるだけ多くの仲間に声をかけ協力を得よう

介入方法～3つのD

DIRECT

加害者や被害者に直接介入

例:加害者に「嫌がっているからやめよう」、被害者に「もう家に帰ろう」と言う



DISTRACT

加害者の気をそらす

例:加害者の近くで「スマホがなくなった。一緒に探して!」などと言って気をそらす。



DELEGATE

別の人に助けを求める

例:店の従業員、先生等に助けを求める。警察に通報する



参考:ちゃぶ台返し女子アクション セクシュアル・コンセントハンドブック

相談窓口 ～一人で悩まず相談を

電話相談

1. 性暴力被害者ワンストップ支援センター

1カ所で総合的な支援を受けられるよう、各都道府県に設置ワンストップ支援センター一覧

https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/seibouryoku/consult.html

はやくワンストップ

#8891 で近くのワンストップセンターにつながる



2. 性犯罪被害相談電話

各都道府県警察の性犯罪被害相談電話窓口につながる

ハードさん #8103 (24時間365日)

3. よりそいホットライン

留学生のために英語、中国語、韓国語等の外国語専門ライン 性別違和や同性愛などについても相談できる

フリーダイヤル 0120-279-338

メール・チャット相談

1. Curetime

<https://curetime.jp/> 匿名でできるチャット相談



2. 大学生のための性暴力救援サイト

<https://nosvva.net/> 匿名でできるメール相談



3. ぱっぷす

<https://www.paps.jp/> リベンジポルノ、盗撮、デジタル性暴力の相談



4. Broken Rainbow-Japan

brainbowj@gmail.com LGBTQ被害者へのメール相談



Report 3

教職員の保育環境について

本学には、令和4年5月現在で3,176人(男性1,199人、女性1,977人)の職員が勤務しています(図1)。これら教職員の子育て支援の一環として、0歳児から5歳児まで各年齢の定員25人、総定員150人の学内保育園(なかよし保育園)が整備されています。定員150人は、公立医科大学の中では最も大きな規模の学内保育園です。生後57日から就学前までの乳幼児を入園対象とし、開園時間は7時から20時、金曜日には夜間保育も実施しています。また、年度途中で復職や入職する教職員の保育ニーズに対応するため、4月1日以降も随時入園を受け付けています。令和4年4月1日時点の在籍園児は93人(図2)となっています。(なかよし保育園HP <https://www.naramed-u.ac.jp/university/kanrenshisetsu/nakayoshihoikuen/index.html>)

なかよし保育園に通う園児の保護者の職種は多岐にわたっておりますが、中でも看護師や医師のこどもが多数在籍しています(図2)。本学職員満足度調査において、女性医師の過半数が産後1年未満での復職を希望しており、職場に近いなかよし保育園での0歳児保育の充実は、女性医師の就労継続にも大きな役割を果たしています。

病児・病後児保育に関しては、平成27年1月から民間医療機関(医療法人吉川医院)と連携し生後6か月から小学生を対象に実施しています。病児・病後児保育の詳細や利用を希望される方は、総務広報課にお問い合わせください(内線2226)。

図1 公立大学法人奈良県立医科大学職員(R4.5.1現在)

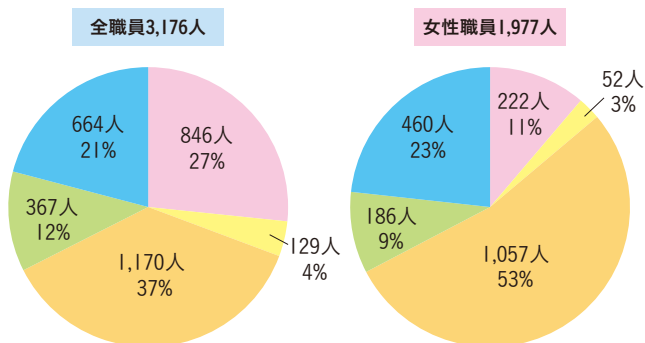
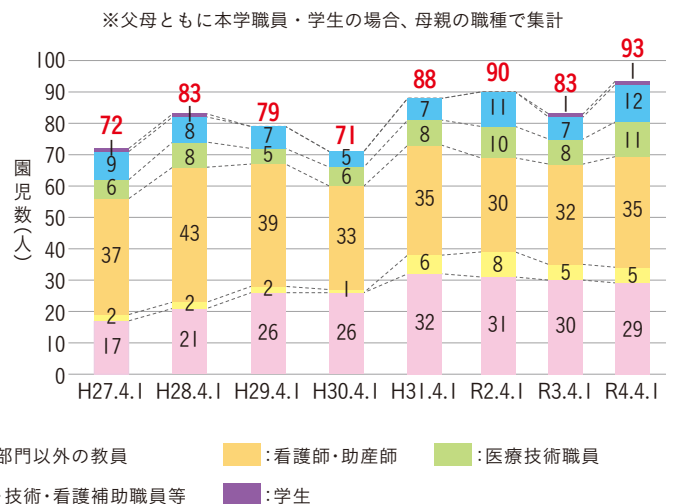


図2 なかよし保育園に在籍する全園児の保護者の職種内訳



■ : 医師・歯科医師等(臨床研修医、医員、臨床部門の教員)
 ■ : 臨床部門以外の教員
 ■ : 看護師・助産師
 ■ : 医療技術職員
 ■ : 事務・技術・看護補助職員等
 ■ : 学生



研究支援員配置制度利用者の声(10)



今回は、研究支援員配置制度を約5年間利用された放射線診断・IVR学の越智朋子助教と田中利洋教授から利用者の声を届けていただきます。

放射線診断・IVR学教室は、大学および関連病院等の上位職に占める女性医師の割合が20%、過去5年間の入局者、専門医取得者、学位取得者に占める女性の割合も20%（令和3年度厚生労働省「女性医療職等の働き方支援事業」の調査）と、本学で女性医師の育成と活躍が最も進んでいる教室の一つです。前教授の吉川公彦病院長の時代から教室全体で女性医師育成に取り組んでこられ、現在は田中利洋教授のご指導の下、多くの女性医師が診療・教育・研究の分野で活躍されています。5年間の研究支援員配置制度利用の成果を基に、越智朋子先生が今後益々発展されますことをセンター一同願っております。

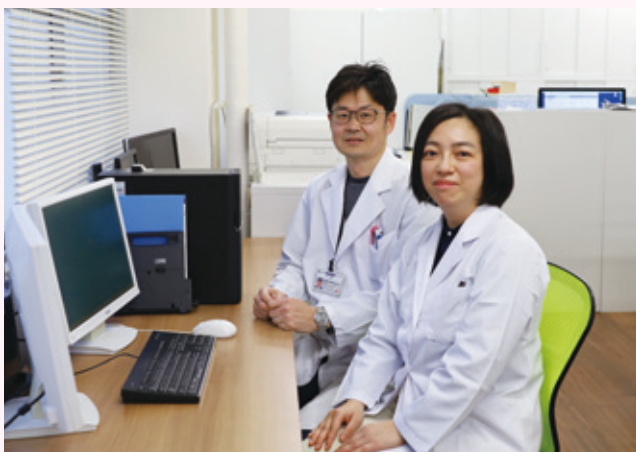
放射線診断・IVR学 助教 越智 朋子

2018年4月から研究支援員配置制度を利用させていただいております。当時、本学化学教室の酒井宏水教授のご指導・ご協力のもと、リポソームを用いてヨード造影剤の腎機能への影響を軽減させる研究を計画していましたが、日常診療と育児による時間の制約が大きく、研究時間の確保が困難な状況でした。そんな時に当教室の吉川前教授・田中現教授から研究支援員配置制度の利用を勧めいただき、利用を申請いたしました。研究支援員の谷さんには実験・データ収集・文献検索など様々な面で助けて頂き、特に研究の要となるヨード造影剤含有リポソームの開発・調製については谷さんに大部分の作業を担って頂きました。

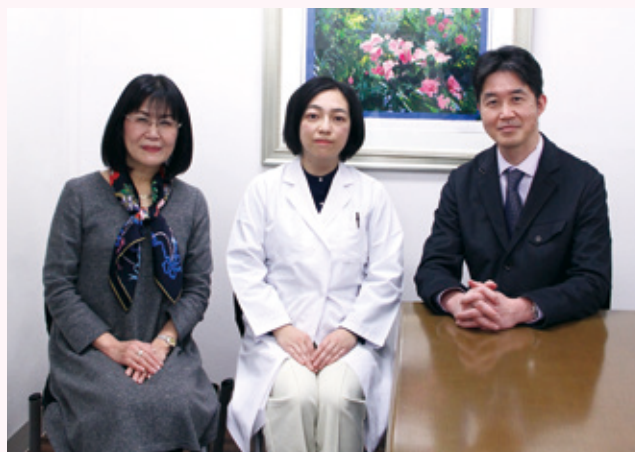
本学の研究支援員配置制度による支援を受け、研究を継続し、論文の形にまとめることができましたことに深く感謝申し上げます。今後も研究支援員配置制度が女性研究者を支える力となってくださいますようお願い申し上げます。

教授 田中 利洋

5年間にわたり当講座の越智朋子の研究にご支援を賜り、須崎康恵先生はじめ、女性研究者・医師支援センターのスタッフの方々に感謝申し上げます。越智が子育てと両立させながら立派に基礎研究をやり遂げることができたことは、当講座としても大きな成果であると大変喜んでおります。今後も女性医師が、高いモチベーションを持って研究に携わることができ講座を目指して参る所存です。引き続きご支援の程、よろしく願いいたします。



研究支援員の谷さん 越智助教



須崎マネージャー 越智助教 田中教授

【編集後記】

今年も多くの学生が本学を卒業しました。彼らの姿を見てつかの間、昔の自分に思いを馳せ、昔の自分も彼らも「不完全ながらベストを尽くしている。必死で頑張っている」という温かな感情が湧き上がりました。彼らの日々の努力に敬意を払い、彼らの若さと美しさを祝福したいと思います。また、私たち大人もこれまで生き抜いてきたことに胸を張り、若い世代の方々と力を合わせて良い仕事をしていきたいと思ひます。令和5年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。
マネージャー 須崎康恵

【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL: 0744-23-8011(直通)
0744-22-3051(代) 内線: 2525
E-mail: jshien@narmed-u.ac.jp

